



MMネットの番組制作の拠点となっている2階の編集室。ここで、取材した映像の編集作業やナレーション原稿の作成が行われます。

では、実際に番組は見たことがあるけれど、その舞台裏ではどのような作業が行われているのでしょうか。
いつもは取材側にあるMMネットクルーの取材から制作・放送に至るまでの姿を追いました。

MMネット

取材

番組を作る上で必要不可欠な取材。MMネットでは、地域の出来事をカメラに収めるべく、4人のカメラマンが町内を駆けまわります。



寄せられた地域の情報は漏らさず取材

毎

日のように事務所に寄せられる地域の情報。MMネットでは、入手した話題を漏らさず取材することを念頭におき、日々4人のカメラマンが美浜・若狭両町を駆けまわっています。

取材は、年間約600件にもおよび、1日で多い時は5件のぼることもめずらしくありません。早朝から夜遅くまで、時には1人が3件を掛け持ちで取

材に出かけます。

日々の取材で気をつけていることは何かを小林さんに訪ねたところ「カメラのファインダーは白黒でしか映し出されないので、撮影前には十分色調を確認し、明るさがとんでないかを気をつけています。後日取り直しはできませんからね。」と話します。

また、林さんは「取材からすでに番組が始まっているんです。放送する流れを考えながら撮ることを心掛けています。また、相手の表情をしっかりとらえ、一瞬のチャンスを見逃さないようにしています。」と語ってくれました。

番組でよく目にするインタビューでは、アナウンサーである佐藤さんも同行し、それぞれがその役割に専念できるようにも努めています。



↑水中綱引きでカメラポジションを確認する小林さん。ホワイトバランスを調整し本番へ臨みます。

成人式でインタビューをとる佐藤さんと林さん。綿密な打ち合わせから二人三脚で取材を進めます。→



林 哲也 さん (松原)

制作 | (株)スタジオ日放派遣スタッフ
Tetsuya Hayashi



佐藤 みゆき さん (金山)

アナウンサー | (株)スタジオ日放派遣スタッフ
Miyuki Sato



↑2階のスタジオで行われる収録。視聴する皆さんが聞き取りやすいように最新の注意をはらい収録が行われます。

収録中、佐藤さんに合図を出す武長さん。ヘッドホンを通して映像との整合性を確認します。



MMネット

制作

第2章

取材で収めた映像を編集する作業も4人のカメラマンが行います。ナレーション原稿の作成や映像編集、収録等を通じて、番組の形に仕上げていきます。



取材した出来事の雰囲気をもそのまま伝えたい

カ

メラマンたちは、取材を終え帰社すると、4人それぞれが編集作業を始めます。

まず、ナレーション原稿の作成。取材した内容を伝える文章を書きます。武長伸征さんは、「その行事の内容を正確にお伝え

することは勿論、視聴者の皆さんがその場の雰囲気を感じ取れるように表現の工夫をしています。言葉選びが重要です。」とナレーションの難しさを語ります。

原稿ができあがると、文章の内容に合わせて映像を編集します。その後はいよいよ収録です。

専用のスタジオで週2回行われる収録には、アナウンサーの佐藤さんのほかに専属で武長一



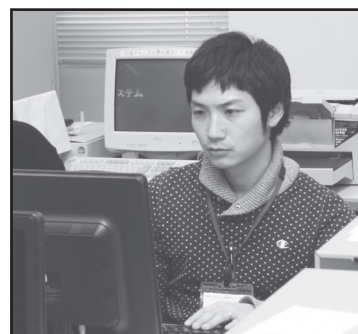
武長 一紀 さん (佐柿)

制作

Kazunori Takenaga

また、「MM47ちゃん」の顔として毎週番組の進行を務める佐藤さんは「事前にストップウォッチで映像の時間に合わせナレーションを吹き込む練習をしています。本番では、笑顔で原稿を読むよう心掛けています。」と笑顔で語ってくれました。

紀さんが同席し行われます。収録前の武長さんにどのような作業をされているかを聞いたところ「簡単に言うと、編集したテープにアナウンサーの声をかぶせているんです。毎回イントネーションやアクセントがおかしくないか、また、カメラへの視線がきちんときているかを慎重に確認しています。ここで見落とすと、そのまま放送してしまうことになるので重責を感じています。」と話してくれました。



武長 伸征 さん (若狭町)

制作

Nobuyuki Takenaga

MMネット

放送

完成したテープはヘッドエンド室(映像送出設備)に持ち込まれ、各家庭へ送信されます。



↑MMネットの中枢である2階のヘッドエンド室。ここには、美浜町と若狭町の行政チャンネルの放送機器等が置かれています。

←完成したテープは自動番組送出装置により各家庭へ送信されます。



真田 邦彦 さん(郷市)

技術・制作課長

Kunihiko Sanada

また、ヘッドエンド室を管理する真田さんは「中山君と24時間体制で安定した放送が届けられるように務めています。不具合があった場合は、深夜・休日に関わらず、すぐに駆けつけ復旧します。」と危機管理体制について話してくれました。

そんな中、また情報提供の

完成したテープは、中山さんの手によって各家庭へ送信されます。

中山さんは「テープ挿入後、放送日時をパソコンに入力しますが、毎回放送時間が異なるため、慎重に二重三重の確認をします。ここで間違えると、制作スタッフの苦労が水の泡になってしまうので。」とデータ入力時の心境を語ります。

24時間体制で安定した放送を届ける2人の技術員

視聴者インタビュー



美方ケーブルネットワーク(株)放送番組審議会
委員 森久 みどりさん(新庄)

地域の行事等を知ることができ、いつも楽しみにしています。初めて会う人でも、放送された番組をきっかけに会話がはずみ、コミュニケーションをとれるのがいいですね。今後も温かい話題を届けてほしいと思います。



中山 航 さん(佐柿)

技術

Wataru Nakayama

1本の電話。スタッフは、スケジュール帳にその日時を書き込み、また新たな話題を発信すべく取材へ出かけます。